

## ○ 法隆寺金堂壁画保存活用委員会



法隆寺金堂壁画保存活用委員会は、2015（平成 27）年 12 月、法隆寺金堂壁画（重要文化財）の一般公開を目指して文化庁・奈良県・朝日新聞社ほかの協力で発足しました。委員会には保存環境、壁画（美術史・材料調査）、建築部材、アーカイブのワーキンググループが設けられ、壁画の初の科学的な総合調査を開始しました。

2023 年 5 月には各ワーキンググループの研究成果に基づき「法隆寺金堂壁画の保存と活用に関する提言」をまとめ、将来的な一般公開に向けて収蔵庫を改修する方針が示されました。これを受け法隆寺は 2024 年度に収蔵庫改修の基本構想を策定。現在、収蔵庫の改修に向け、基本設計を作成しています。

しかし収蔵庫の改修、境内の防災整備に向けては、地盤の調査や収蔵庫内にある古材の一時移動先の確保など、まだ様々な多くの課題があります。引き続き委員会や法隆寺みらいプロジェクトにおいて課題の解決に取り組んでいきます。

・朝日新聞関連記事：2024 年 6 月 9 日 [法隆寺金堂壁画、収蔵庫改修で専門家による WG 設置へ](#)

## ○ 法隆寺金堂壁画の保存と活用を考えるシンポジウム



法隆寺金堂壁画保存活用委員会では、2015 年の発足以来毎年、委員会の活動の周知を目的とした講演会・シンポジウムを開催しています。これまでに委員会の委員やワーキンググループ専門委員を中心とする諸分野の専門家が登壇しました。

### ■ 2025 年度シンポジウム「法隆寺金堂壁画と『文化財写真』」

(2025 年 2 月 23 日、東京・有楽町ホール)

法隆寺金堂壁画保存活用委員会の活動の周知を目的に毎年開催されているシンポジウムで、2025 年は戦前に撮影された写真のガラス原板（重要文化財）や、現在、法隆寺金堂壁画保存活用委員会で進行中の高精細デジタル撮影など、文化財写真の活用と可能性をめぐって研究者らが語り合いました。

(抜粋)

・無意識に撮影されたものに、のちの時代、価値が発見されることもある。それは膨大な情報を持つガラス原板にもいえ、デジタル化され、パソコンや携帯で手軽に見られるようになったことで、誰もが第一発見者となる可能性を秘めている。(青柳憲昌・立命館大准教授)

・昭和 10 年撮影のガラス原板は 363 枚。2 カ月半に及ぶ空前絶後の事業規模、最高の技術で精密な現状記録を作成した意味で、ひとつの到達点だ。昭和の模写や戦後の再現模写の下図となって壁画の価値を世界に伝えた。それが 1 枚も欠けることなく守り伝えられていること自体、稀有(けう)なことと言える。(宮崎幹子・奈良国立博物館資料室長)

・2015 年に保存活用委員会が立ち上がり、現在の令和の撮影に至る。(中略)文化財写真の撮影者は非常に少ない。文化財は国民共有の財産だ。時代時代に文化財写真を写す技師がいて、どんな思いで残してきたかを知ってほしい。(中村一郎・奈良文化財研究所写真室専門職員)

(出所：下記、関連記事(1)より。承諾番号「26-0015」)

・朝日新聞関連記事： **(ログインが必要です)**

2025 年 3 月 27 日 [文化財写真、どう活用？可能性めぐり議論、法隆寺金堂壁画シンポ\(1\)](#)

2024 年 2 月 23 日 [法隆寺金堂壁画 一般公開へ向けて～提言から読み解くこれから 10 年の展望～](#)

2023 年 2 月 18 日 [世界遺産登録 30 周年記念 世界の至宝・法隆寺～1400 年の歴史を未来へ～](#)

2022 年 2 月 26 日 [壁画収蔵庫竣工\(しゅんこう\)70 年～法隆寺金堂壁画のいまと明日～](#)

2021 年 2 月 20 日 [国宝・法隆寺金堂の謎に迫る](#) (この回は大阪・中之島会館で開催)

以上